

【様式】

令和元(2019)年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		商業教育を通じて、「創造力」・「協調性」・「知恵」を持った人材を育成することで、地域社会に貢献できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの可能性に挑戦し続けるとともに自ら学び、自ら考え行動し、自立している生徒</li> <li>・忍耐力・創造力・協調性を身につけ、新たな課題の解決に積極的に取り組んでいる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像の実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら育みたい生徒の姿を目的として、互いに協力し、創意工夫が図れる教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt;部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt;子どもが安心安全な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。</p> <p>&lt;地域&gt;学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をとともに育成することを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>&lt;家庭&gt; 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加</p> <p>&lt;中学校&gt; 卒業生の様子、入試情報などの共有</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p>&lt;中学校&gt; 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○生徒個々のコミュニケーション能力は高いように思えるが、さらにレベルアップするためには、自ら考える力を身につけさせることが課題である。</p> <p>○津商業は部活動が盛んであるというイメージがあるが、勉強の取組や進路についてさらに地域にアピールしていくことが大切である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校周辺地域からの入学者が多い。資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、進学志望者も増加しており、就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務であるとともに、新学習指導要領の全面実施に向けたカリキュラムの検討や授業改善等についてさらなる協議を進める必要がある。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外への本校の取組の情報発信の方法を工夫する必要がある。</li> <li>・授業内容の工夫改善を推進し、提供する授業内容を充実させるとともに、学力向上に向けた教員間及び授業間の連携を進める。</li> <li>・組織の業務内容を整理するとともに、重点的に取り組むべき事項を洗い直し、総勤務時間の縮減に向けて取り組む。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら学び、自ら考える取組となるような課題の設定や学習活動を推進する。</li> <li>基礎学力を充実させるとともに、専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携を考慮したカリキュラム・マネジメントを推進する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求める取組を推進する。</li> <li>地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取組を進める。</li> <li>目的の明確化および共有を進め、組織の業務の見直しを進めることで過重労働の削減に取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1) 外部の教育力を積極的に利用し、より具体的な内容や新しい情報を用いた授業を行い、意欲を引き出す授業を実施する。 <b>【成果指標】</b> 生徒の学校生活アンケートにおいて、学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 75%以上	各学年で外部教育力の活用を促進することができた。ことに、3学年の課題研究においては、宿泊施設をはじめとした地元企業との連携や県警とコラボした取組など、多様な主体との協働ができた。なお、成果指標は77%で目標達成である。	◎
キャリア教育の充実	(1) 進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択となるよう多岐にわたる内容とする。 (2) インターンシップの充実 インターンシップを通して、生徒が自らの進路を主体的に考えられるようにする。 <b>【成果指標】</b> インターンシップ終了後のアンケートにおいて、自らの進路について考えることができたという回答する生徒の割合 70%以上	充実した進路ガイダンスを実施したことで、希望者全員の就職が実現した。進学においても三重大大学の合格者を出すなど、生徒たちに頑張りにつなげることができた。 インターンシップについては、津商工会議所の全面的な協力のもと大変効果的な取組にすることができた。なお、事後アンケートとで「体験してよかった」と答えた生徒は98%であり、ほぼ全員が進路について考えられたといえる。	
心を育む教育の取り組み	(1) 命を大切にすることを育む教育の充実 自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にする態度を育成する。 教科指導と連動させながら取組を進める。 <b>【成果指標】</b> 生徒へのアンケート等を年間3回実施し、現状分析とともに課題を把握し、解決に向けた取組を進める。	人権教育カリキュラムに基づいて、各教科や分掌が「つきたい力」を明確にすることができている。そのため、教科指導と人権に係る校内の取組が有機的に連携できた。ことに、1年生の人権フィールドワークとその発表会は大変充実した内容となった。事後のアンケート結果と、人権教育推進協議会での様々な意見を次年度の取組に反映させていく。	

#### 改善課題

上記のとおり、それぞれの取組は大きな成果を得たことから、次年度についても同様の質と量を保ったまま、継続的に取り組む必要がある。今後は、新指導要領施行への対応のために必要な改善を図ることが課題となる。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1)校外の研修会・講習会等への計画的な参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】(1) 6名以上 (2) 年2回以上	商業科に係る校外研修、進路指導、人権教育などに関わって、多くの教員が研修に出かけた。 11月5日～15日を授業研究習慣と位置づけ、互見授業の取組をしたほか、商業教育の各研究部会がセミナー等を実施した。	
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 (2)ウェブページ、Instagram等の積極的な活用 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケートでの満足度80%以上	公開授業(6/4)、高校生活入門講座(9/28)のほか、青葉祭(体育祭)や学校祭、人権フィールドワーク発表会を公開した。 ウェブページには、毎月、最新の記事を掲載することができた。また、地元自治会にその記事を回覧することもできた。 入門講座のアンケートでは「教員の対応」や「生徒の印象」について「良かった」との回答が95%を超えた。	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】 授業での校外学習、部活動を含むすべての取組で、実施5回以上	人権フィールドワークでは県内の12の機関を訪問し、調べ学習を進めた。課題研究においては津市内の商店街を訪問するなど、生活につながる学習に取り組んだ。 その他、県生涯学習センターで開催された「地域『学』フェスティバル」に参加したり、「津新町フェスタ」に出店したりと、地域と連携した取組を実施した。 部活動では吹奏楽部が施設を訪問して演奏会を開催するなど、地域社会とのつながりを深めることができた。	◎
総勤務時間の縮減	【活動指標】 (1)年次有給休暇取得日数の増加 (2)月80時間超の時間外延べ前年度比半減 (3)夏季休暇及び元気・回復休暇の取得促進 (4)月1回の定時退校日実施 (5)部活動の週1回休養日の設定 (6)夏季休業中の閉校日の設定(1日以上) 【成果指標】 (1)昨年度取得日数より1日以上増50% (2)延べ6人以内 (3)全職員の取得実績 (4)定時退校日設定100%、退校率95% (5)休養日設定・実施率100%	暦年集計の年次休暇については、取得状況を、平成30年12月までと令和元年12月までの1年間で比較をした(両年にわたって本校に在籍している教員対象)。結果は指標(1)の目標値を若干下回る41%であった。 指標(2)については、11人となってしまい、目標が達成できなかった。 (3)については、夏季休暇は全職員が取得できた。 (4)、(5)については、目標どおり達成できた。	※
改善課題			
資質向上の取組、情報提供、地域との連携については成果が得られたが、総勤務時間の縮減については、より一層の取組が必要である。			

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>広報活動は充実させることができている。ウェブページの更新頻度や内容も含めて、津商業高校としての取組が分かりやすく発信されている。津商業の教育の成果を感じ取ることができる。</p> <p>進路保障に向けて、すでに組織的に取り組んでいるが(小論文指導・面接指導・補習授業など)、そのことについてのアピールをさらにすべきではないか。</p> <p>また、次年度すぐにとということではないが、進路先での様子なども追跡調査ができるようにすると、より良い情報発信につながるのではないか。</p>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>質や量を落とさずに、次年度も様々な取組を継続的にすすめていく。特に、進学希望者が多くなり、多様化してきていることから、就職だけでなく、進学に向けた取り組みのさらなる充実が必要である。</p> <p>それとともに、令和4年度より施行される新学習指導要領へのスムーズな移行を図る必要がある。</p>
学校運営についての改善策	<p>資質向上、地域との連携については、引き続き充実した取組を進めていく。情報提供については、進路保障のための取組を整理し、わかりやすく地域に発信する。</p> <p>なかなか解決に直結していない課題としては、教員の働き方改革に関する取組があげられる。法律が改正施行されたことを受けて、今後、短期的な取組だけではなく、中長期的な視点に立って整理すべき事項を検討していく必要がある。</p>